

老健にいがた

2008. 8 Vol.24

第24号

～いまこそ、私たちの声を国会に、そして官庁に！！～
介護職員の生活を守る緊急全国集会

【主催】 全国老人保健施設連盟 【共催】 社団法人全国老人保健施設協会

介護職員の賃金に財源を！

介護職員に普通の生活を！

166万の声を国会に！！

目次

巻頭言	1
特別寄稿	2
協会だより	3～5
特集：介護職員の生活を守る 緊急全国集会	6～8
講座：食の安全・安心のために	9～12
事務長会議報告	13
研修会報告	14
平成19年度新潟県介護老人保健施設大会	15～16
老健とわたし	17～18
編集後記	19



新潟県介護老人保健施設協会

巻頭言

新設「介護療養型老人保健施設」を考える

新潟県介護老人保健施設協会

理事 野村 穰 一



平成20年5月から、療養病床からの移行申請が始まった介護療養型老人保健施設（以下、「療養型老健」）について考えてみたい。

「療養型老健」の新設は、国による医療費削減・病床削減策の一環としての「療養病床再編（医療療養病床削減・介護療養病床廃止）」から始まり、削減・廃止だけでは混乱が大き過ぎると、それら病床の転換先として当初は、介護老人保健施設や、特別養護老人ホーム、有料老人ホームなどの福祉施設が考えられていた。

しかし、いつの間にか、介護老人保健施設（以下「既存の老健」）とは別に、「療養病床から転換する施設のみ」を対象とする新たな老健（「療養型老健」）が制度化され受け皿となるに至った。

その施設要件は、平成24年3月31日までの間に病床の転換を行って開設した老人保健施設であって、①算定日が属する月の前の12月間における新規入所者のうち「医療機関」から入所した者の割合と「家庭」から入所した者の割合の差が、35%以上であること。②算定日が属する月の前3月間において、全入所者のうち「経管栄養」若しくは「喀痰吸引」を実施している者の割合が15%以上又は、「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」におけるランクMに該当する者の割合が20%以上であること。のいずれかを満たすこと。とされている。

また、施設機能の強化を求め、夜間の看護

体制、看取りの対応体制や急性増悪時外部の医師の対応に対し報酬上評価を加え（総体的報酬は「介護療養医療施設」と「既存の老健」との中間）、さらに、転換に当って種々の経過措置や支援措置が挙げられている。

以上の概要から、幾つかの問題点や疑問が出て来る。

1. 「既存の老健」とは別に、「転換先としてだけ存在する老健」新設の意図は？
 2. 移行期限が平成24年3月までとは、以後は廃止？
 3. 継続の場合、経過・支援措置はなく、「既存の老健」からの移行が可能？
 4. 新設老健は「既存の老健」の組織（全国・県老健協会）には入らない？
- などなど……。

療養病床削減のための移行誘導策ではあっても、老健が2本立てとなり、医療・介護制度がますます混乱して行くことには納得できない。

さらに、私達「既存の老健」でも多くの施設で看護体制や救急対応の強化に努めており、平成17年の全老健調査では、35%の施設で終末期の看取りを行っていた。

このように考えて来ると、むしろ平成24年4月統合（1本に）に向けて、平成21年の定期報酬改定（既存老健の）には、先ず両者の整合性を図った改定議論を願いたいものである。

特別寄稿

ご挨拶

新潟県福祉保健部長

石上 和男



新潟県介護老人保健施設協会の皆様におかれましては、日ごろから高齢者保健福祉の推進にご配慮いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、本県では、全国よりも高齢化が早く進み、既に県民の4人に1人が65歳以上の高齢者となっております。今後、高齢化の更なる進展に伴って要介護等認定者数が増加するとともに、その重度化が進み、介護サービスや医療サービス等に対するニーズも量的・質的に変化していくものと推測されます。

また、国では、医療構造改革の一環として療養病床の再編成が進められており、高齢者の状態に即した適切なサービスを効率的に提供するために、療養病床から老人保健施設等への転換が推進されています。平成20年4月の介護報酬改定では、「介護療養型老人保健施設」が創設されるなど、介護老人保健施設を取り巻く状況も変化してきています。

このような中で、高齢者の生活機能の維持向上を図りながら、在宅で自立した生活が継続できるよう支援していく介護老人保健施設の果たす役割は非常に大きく、今後も利用者のニーズに合ったきめ細やかなサービスの提供が求められているところです。

一方で、近年、介護を担う優れた人材確保が大きな課題となってきましたが、国において、介護従事者等の処遇の改善に資する施策の在り方の検討や、必要な措置が行われ

ることが期待され、県としましても、安定的な人材の確保が実現できるよう国に働きかけてまいりたいと考えています。

また、県では、高齢者が将来にわたり安心して必要な介護や医療を受けることができるよう、地域の実情を踏まえたサービス基盤整備に取り組んでおり、今年1月には「新潟県地域ケア体制整備構想」を策定しました。

これは、「介護」、「在宅医療」、「見守り」、「住まい」の充実と連携により、高齢者が住み慣れた自宅や地域での継続した生活を支える「地域ケア体制」を構築するための施策の方向性や、療養病床の再編成に関する基本方針を明らかにしたものです。

この構想の内容については、今年度策定します。「第4期新潟県高齢者保健福祉計画」にも反映させ、実現に向けて具体的な取組みを進めていく予定です。

新潟県介護老人保健施設協会の皆様におかれましても、地域で支え合う尊厳ある長寿社会づくりを目指して、研修や研究発表等の場を通じて高齢者介護をめぐる様々な課題を共有し、引き続き介護サービスの質や専門性の更なる向上に努められることを期待しております。

最後になりましたが、新潟県介護老人保健施設協会のますますの御発展と会員の皆様の御健勝を祈念いたしまして、挨拶といたします。



平成20年度通常総会開催

平成20年度通常総会が平成20年4月22日、ホテル新潟で開催された。冒頭、田中会長が挨拶され、続いて新会員（いっぽく2番館・江風苑）の紹介があった。その後、事務局より総会時の会員数88名のうち26名が出席（他に代理出席11名）、委任状提出会員62名で計88名となり、定足数を満たし本総会成立の報告の後、議長に清流苑の大森隆先生を選任し進められた。また、議事録署名委員に晴和会上所園の川口英弘先生、有楽園の宮澤登先生が選任された。議題に入る前に報告事項として①各委員会報告②社団法人全国老人保健施設協会関東・甲信越ブロック代表者会報告③社団法人全国老人保健施設協会代議員会（H20.2.22）報告④介護サービス情報の公表に関する手数料の軽減に関する請願について報告⑤「介護職員の生活を守る署名」についての報告があり、続いて議事に入った。第1号議案：平成19年度事業報告案及び平成19年度収支決算案に関する件、第2号議案：平成20年度事業計画及び平成20年度収支予算案に関する件、第3号議案：平成21年度第20回全国介護老人保健施設大会について、第4号議案：理事の辞任及び補充選任については、理事会より女池南風苑の樋熊紀雄先生が推薦され承認された。第5号議案：ホームページの変更手続きについて、第6号議案：その他について、活発な審議がなされた。第1号議案、第2号議案、第3号議案は原案通り議決、第4号議案、第5号議案は原案を承認、第6号議案は田中会長より次年度の予算において県大会の優秀発表者に対して3～4年に1回海外の学会に参加するための基金の創設について提案がなされ承認された。続いて、「平成19年度新潟県介護老人保健施設大会」の表彰式が執り行われ、学術奨励賞を受賞した6施設の代表者に田中会長より賞状が授与された。

事務局 斎藤



（総会の様子）



（樋熊 紀雄 新理事）



（学術奨励賞 受賞者）

新役員紹介



理事
樋熊 紀雄

メッセージ：『介護保険法、その中で介護老人保健施設の役割を理解・認識し、職能集団がどのように機能を発揮したら利用者が安全・安心して施設で生活を送れるか。介護知識・技術の習得による介護の質の向上をめざして職員と共に努力していききたいと思います。』

現 職：医療法人恒仁会副理事長
介護老人保健施設女池南風苑施設長

モットー：会話を通して明るく、楽しく
趣 味：ゴルフ、山歩き、スポーツ見物

平成20年度事業計画

会 議

- (1)通常総会 会則第11条の規定に基づき年1回開催する。
- (2)臨時総会 会則第11条の規定に基づき必要に応じて開催する。
- (3)役員会 必要に応じて開催する。

委員会

- 【学術研修委員会】年6回程度必要に応じ開催し、研修会等の実施について具体的事項を検討する。
- 【広報委員会】年6回程度必要に応じ開催し、機関誌の編集、立案について審議する。
- 【トラブル防止検討委員会】事故・トラブルの未然防止を主目的とした研究をする。
- 【事務長会】実務的な問題事項を検討し、必要に応じ事務長会議を開催する。

施設運営アンケート調査の実施

必要に応じて実施する。

機関誌の発行

機関誌「老健にいがた」第24号・第25号の発行

研修事業

- | | | |
|----------------|----------------|-----------------|
| ・高齢者のリハビリテーション | 平成20年7月18日(金) | 新潟ユニゾンプラザ |
| ・介護支援専門員養成講座 | 平成20年9月9日(火) | 高齢者総合福祉相談センター福住 |
| ・現場ですぐできる実践講座 | 平成20年9月25日(木) | アトリウム長岡 |
| ・接遇研修 | 平成20年10月16日(木) | 朱鷺メッセ |
| ・新潟県介護老人保健施設大会 | 平成20年11月12日(水) | 朱鷺メッセ |
| ・公開セミナー | 平成20年11月12日(水) | 朱鷺メッセ |

全老健 第29回通常代議員会報告

代議員
介護老人保健施設 米山爽風苑
管理者：松田 ひろし

平成20年2月22日（金）東京の第一ホテル両国にて全老健第29回通常代議員会が開催された。冒頭の川合全老健会長の挨拶で老健の置かれている厳しい状況ならびに転換型の新しい老健についての厚労省の案について述べられた。

次に議題に入り、まず平成20年度事業計画・収支予算について、次に平成19年度事業計画の一部変更ならびに収支補正予算について説明があり、承認された。

報告事項として第19回全老健大会支部の進捗状況について京都府支部長より報告があり、次に第20回新潟大会について田中新潟県支部長からアナウンスがあった。さらに第21回大会は岡山県支部開催が決定されたとの報告があった。

質疑応答は多数あり、特に転換型の老健と従来型の老健との差異等について質問が集中し、執行部が返答に窮する場面もあった。

全老健 第30回通常代議員会報告

代議員
介護老人保健施設 越南苑
理事長：石田 央

社団法人全国老人保健施設協会の第30回通常代議員会および第23回通常総会が平成20年6月20日（金）東京都港区白金台の「八芳園」で開催されました。

本県からは松田、石田両代議員が出席し、田中会長は理事の一人として出席されていました。

1・議題 第1号議案 平成19年度事業報告案について

第2号議案 平成19年度収支決算案について

以上が一括提出され原案通り満場一致で可決されました。

第3号議案 会長推薦理事補充選任について

土肥 信行 氏（学校法人兵庫医療大学 リハビリテーション学科 学部長）

今村 英仁 氏（国立大学法人鹿児島大学歯学総合研究科 非常勤講師）

が理事として承認されました。

第4号議案 諸規定の見直しについて

(1) 社団法人全国老人保健施設協会事務局組織規定の一部改定

(2) 社団法人全国老人保健施設協会就業規則の一部改定

(3) 社団法人全国老人保健施設協会委員会規定の一部改定

(4) 社団法人全国老人保健施設協会表彰規定実施細目の一部改定

が提案され満場一致で
可決されました。

2・協議事項 介護報酬改定について

要旨：厚労省は介護事業経営概況実態調査を参考にして老健等の経営状態を把握し介護報酬等の決定の参考にしている。全老健も会員に対し同様な調査を行っている。その結果厚労省と全老健の調査結果に差が見られた（表）。

入所事業・通所事業 を合わせた損益	平成19年度「介護事業 経営概況調査」 （厚労省）	全老健「緊急実態 調査」 18年度決算
実施年月日	平成19年12月	平成19年9月
有効回答数	91	900
平均定床数	107.9	91.2
損益	4.30%	3.40%
人件比率	53.10%	55.50%
原価消却前利益率	11.40%	9.90%

上記の事から母集団の多い全老健の調査が実態を反映しているのでこれらに基づいて次期介護報酬等の改定を行うよう要望するという方針が執行部より示されました。神奈川県代議員より「人も集まらず、ベースアップの原資もなくもう限界である」との発言があり、又秋田の代議員からは「入院の場合民間の生命保険より補償金や見舞い金が出る場合がある。老健入所の場合も適応になるように働きかけをしたらどうか」という発言があった。

3・報告事項

① 第19回全国介護老人保健施設大会京都について

林大会会長より進捗状況について説明があった。まだ参加登録者数は3413/5500（予定）（62.1%）であり、多数の参加を望むとの要望がありました。

② 第20回全国介護老人保健施設大会新潟について

大会の宣伝パンフレット及び概要の資料が配布され、田中会長より新潟の魅力と大会参加への要望がなされた。

③ 平成19年度4月30日正会員数は3,523施設との報告が事務局よりありました。

その他：河崎 茂顧問より「介護職員の生活を守る緊急全国集会」参加への謝辞が述べられた。

以上代議員会の報告とします。

新潟県中越沖地震

柏崎市感謝状贈呈式

平成19年7月16日発生の新潟県中越沖地震で被災された会員施設並びに職員の皆様には改めてお見舞い申し上げます。

この度、平成20年7月1日（火）に柏崎ベルナールにて昨年7月に発生した新潟県中越沖地震の震災後1周年を迎えるに先立ち、救援活動を行った個人・団体に対し柏崎市長より感謝状が贈呈され、当協会に対しましても感謝状の贈呈がありました。柏崎市長挨拶のあと、感謝状贈呈式があり、最後に震災からの復旧と復興について報告がありました。（贈呈式は事務局が出席）



お知らせ

平成20年度新潟県介護老人保健施設大会!!

開催日:平成20年11月12日(水)
会 場:朱鷺メッセ

公開セミナー
同日開催!



平成21年度 第20回全国介護老人保健施設大会新潟!!

『老健が創る新文明～トキめく長寿社会をめざして～』

開催日:平成21年7月22日(水)～24日(金)
会 場:朱鷺メッセ他

- ・特別講演(厚生労働省)
- ・記念講演「これからの日本を創る年寄りの役目」(仮題)
藤原正彦先生 お茶の水女子大学理学部教授
- ・パネルディスカッション
 - ① 高齢者の尊厳を守る夢ある職場 座長 漆原 彰 全老健名誉会長
 - ② 老健のリハビリはどうあるべきか 座長 鳥羽研二 杏林大学医学部教授
- ・シンポジウム 「長寿社会は老健に何を求めるか」
座長 川合秀治 全老健会長
- ・公開講演 火坂雅志先生
平成21年 NHK大河ドラマ「天地人」作家



介護職員の生活を守る緊急全国集会

～いまこそ、私たちの声を国会に、そして官庁に!!～

平成20年6月5日(木)東京都 日比谷公園大音楽堂(日比谷野音)



当日はあいにくの曇り空のなか、開会の1時間前から続々と参加者が集合。

手作りの横断幕や幟が立ち、開会前から会場は熱気に包まれていました。

全国から定員を超える3,000名以上の介護職関係者が一同に揃い、全国集会が開会しました。



全国老人保健施設連盟 河崎茂委員長



全国老人保健施設協会 川合秀治会長

介護職員の生活を守る緊急全国集会 ～いまこそ、私たちの声を国会に、そして官庁に!!～

日 時 平成20年6月5日(木)12:00～15:00
会 場 日比谷公園大音楽堂(日比谷野音)

次 第

【第1部】

1. 開 会
2. 主催者挨拶
・全国老人保健施設連盟 委員長 河 崎 茂
3. 共催団体挨拶
・社団法人全国老人保健施設協会 会 長 川 合 秀 治
4. 介護職員の声(現場の代表3名)
5. 各政党からのメッセージ
・自由民主党政務調査会長 衆議院議員 谷 川 浩 一 先生
・公明党政務調査会長代理 衆議院議員 福 島 豊 先生
・民主党政策調査会長 参議院議員 直 嶋 正 行 先生
6. 謝辞
・社団法人全国老人保健施設協会 東京都支部長 山 田 慎 一

【第2部】

7. パネルディスカッション「介護職員の生活を守るために」
・座 長 河崎茂子(社団法人全国老人保健施設協会理事)
・パネリスト 沖崎典子(社会保障審議会委員、作家)
堀田聡子(社会保障国民会議サービス保障分科会委員、
東京大学社会科学研究所特任准教授)
介護職員(現場の代表3名)
- ※応援メッセージ 勝田登志子(社会保障審議会委員、社団法人認知症の人と家族の会副代表理事)

【第3部】

8. 賛同団体挨拶・紹介
9. 宣 言
10. 閉 会

全国集会プログラム



介護職員の声（現場の代表者）

介護職員の意見表明では、介護老人保健施設に勤務する職員が、現場の代表として壇上から介護職の現状と待遇改善、労働環境改善を訴えました。

高齢者の増加で現場の負担が重くなっているにもかかわらず、介護職は厳しい条件での労働を強いられているとして、「せめて普通の生活ができるだけの賃金を支給してほしい」という意見が述べられました。



自由民主党 谷垣禎一氏



公明党 福島豊氏



民主党 直嶋正行氏

当日は衆参両院の国会議員も多数参加され、各政党の代表者が決意表明をしました。総理大臣補佐官の伊藤達也衆議院委員は「（福田総理に）介護の担い手である皆さんの熱い想いはしっかりと伝えたい」と挨拶しました。



新潟県内からも多数の会員が参加



手作りの横断幕を掲げる参加者

「介護職員の生活を守るために」というテーマで行われたパネルディスカッションでは、座長・パネリストより、現在の介護保険サービスの不備と矛盾を指摘し、制度の意義と見直しを訴えました。

またパネリストからは、我々参加者に対し、「現場からもっと発信してほしい、発信がなければ介護現場を知らない人々に現状は伝わらない。あきらめずに声を上げて、介護職の役割を語り続けてほしい。」といった貴重な意見がありました。

緊急集会宣言 (案)

本集会は、先の署名活動で集められた 166 万人の魂の叫びを御旗に、「介護職員等の待遇改善」と「事業所の経営状態改善」を求めるものです。

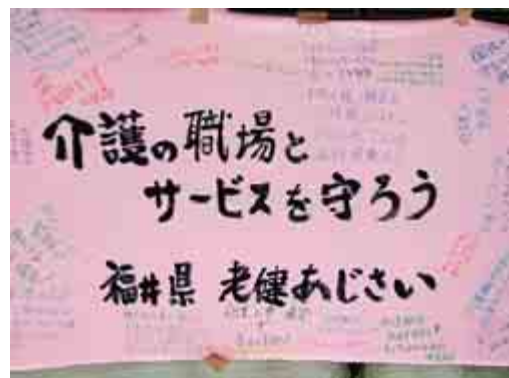
1. 賃金のアップと労働環境の改善を求めます。
2. 事業所経営の健全化のために、介護給付費の増額を要求します。
3. 2200 億円の社会保障費の削減の撤廃と老健施設の機能への正当な評価を求めます。

私たちは、これらの要望が通り、経営状態が改善された際には、介護職員等の賃金のアップ、待遇の改善を最優先させることを誓います。

平成 20 年 6 月 5 日

介護職員の生活を守る緊急全国集会

←最後に、国に対する 2,200 億円の社会保障費の削減撤廃と、介護報酬の増額を求める宣言が採択され、閉会となりました。



現場の切なる声が届きますように

今集会に至るまでの経緯（当日の配布資料より抜粋）

全国老人保健施設協会では、昨年末から今年 2 月まで介護職員の生活を守る署名活動を展開し、166 万人を超える署名を集めた。平成 20 年 3 月 4 日、川合秀治全老健会長、木川田典彌全老健副会長、内藤圭之全老健常務理事及び河崎茂老健連盟委員長が、全国の都道府県支部から届いた「介護職員の生活を守る署名」を、舩添要一厚生労働大臣及び額賀福志郎財務大臣宛てに、「介護職員に『普通の生活』を保障できる給与体系が可能になるような介護報酬改定の陳情書」とともに提出した。

川合会長は、「現場では、介護職員が『お年寄りを介護する仕事が好きだけど、この給料では所帯がもてない』といって辞めていく、介護職員を募集しても人が集まらない、といった状況だ。たしかに、職員の給与を確保するのはわれわれ経営者の裁量に負うところも多いだろう。しかし、過去 2 回の介護報酬引き下げは、裁量の余地を奪ってしまった。このまま介護職員が将来に希望を持てず、現場から離れていくといった状況が続けば、介護の担い手がいなくなり、制度自体が崩壊してしまう。介護職員に『普通の生活』を保障できるだけの給与体系をつくるためには、もう、介護報酬の底上げしかない。」と訴えた。

～取材を終えて～

全国規模で 3,000 人を超える同志が集まった会場は、熱気であふれていました。

実際に参加してみると、介護老人保健施設そして介護業界全体は日本底辺を支えているのだということを実感し、加えて置かれている状況も日本の底辺部に属しているのではないかという現実を認識しました。来年度の介護報酬改定に向けて、私たち介護老人保健施設職員の切なる声が反映されることを願わずにはいられない集会でした。

（緊急全国集会の詳細は、機関誌『老健』平成 20 年 7 月号に掲載されています。）

取材：介護老人保健施設 ケアポートすなやま
介護老人保健施設 有楽園

小林 剛
伊藤 貴子



食の安全・安心のために

～ノロウイルス食中毒を予防しましょう～

新潟県福祉保健部生活衛生課 食の安全・安心推進係 主査 白井 和也

● 最近の食中毒発生傾向

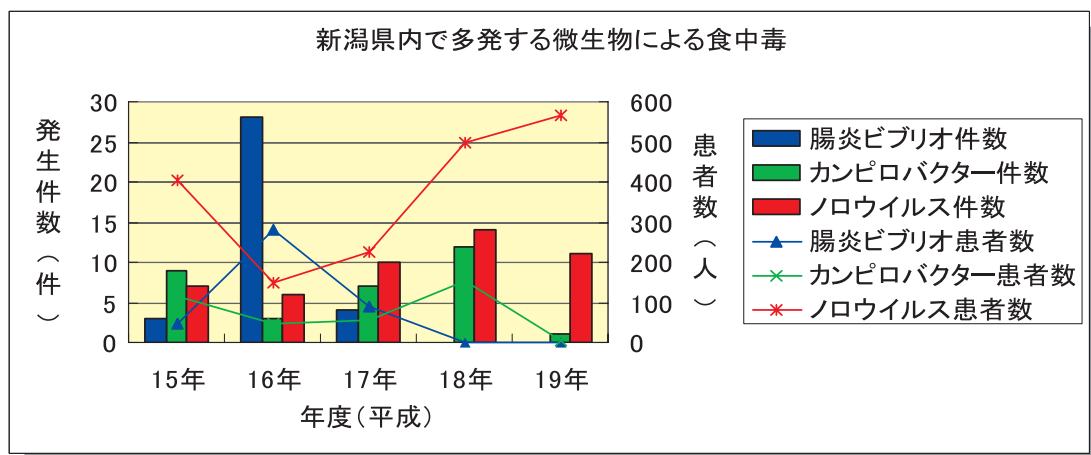
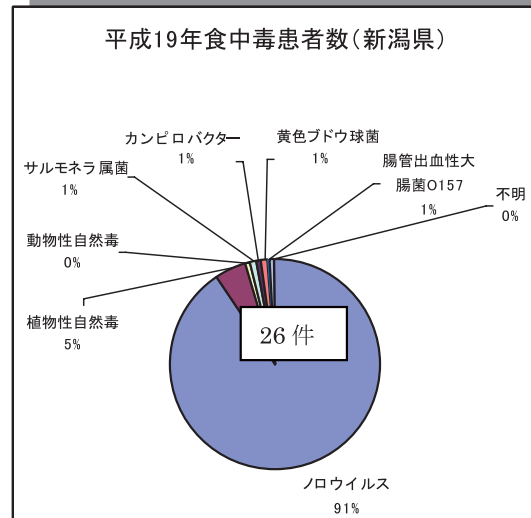
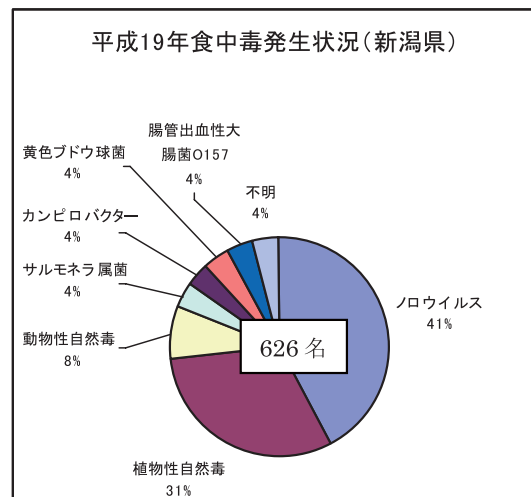
平成19年、新潟県では、26件の食中毒が発生し、患者総数は、626名でした。

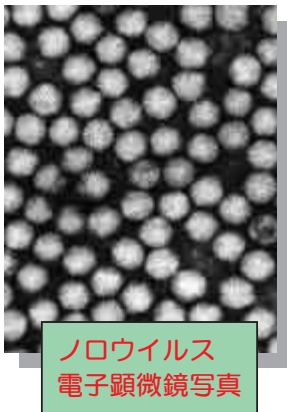
平成19年の発生傾向としては、ノロウイルスに起因するものが発生件数11件、患者数567名と最も多く、患者数100名を超える大規模な事件が2件ありました。

平成15年から平成19年までの5年間ににおける全国および新潟県内の食中毒発生状況（中期的傾向）を解析すると、全国では、カンピロバクター、ウイルス、サルモネラが上位を占めました。新潟県ではウイルス、自然毒、腸炎ビブリオが上位を占めました。

また、この5年間ににおける患者発生状況は、全国・新潟県とも、ウイルスに起因するものが最も多く、全国では約78,000人、新潟県内でも約1,900人の患者が確認されています。近年、全国的にノロウイルスによる健康被害の症例報告数が急増傾向にあり、営業施設から家庭に至るまで、感染症と食中毒の両面からの予防対策が求められています。

また、新潟県内においても、これまで冬期間に多発するといわれてきたノロウイルス食中毒が夏場に発生するなど、年間を通して衛生管理等の予防対策が必要となっています。





ノロウイルス
電子顕微鏡写真

● ノロウイルスの感染経路について

ノロウイルスは、直径約38nm（38/1,000,000nm）で電子顕微鏡を用いなければ見えないほど小さなウイルスで、食品や環境中では増殖することはできませんが、人の口から体内に入り、小腸に感染して増殖し胃腸炎等の健康被害をもたらします。

また、ノロウイルス感染症は、感染源からの暴露を受けた後、1～2日の潜伏期間を経て、嘔吐や下痢の症状を呈します。症状は、通常、2日ほどで回復しますが、腸内のノロウイルスは、症状消失後、長い人で約1ヶ月間は便中に排出され続けるので、ト

イレの後などの手洗いは特に念入りに行わなければなりません。

ノロウイルス感染症は、患者の嘔吐物や糞便等を感染源として、人から人へ感染することから、新感染症法第5類に分類される経口感染症として扱われますが、この感染経路の途中にノロウイルスに汚染された食品が介在し、その食品の摂食に起因して患者が発生した場合、食中毒と判断されます。冬期を中心に流通販売される真カキなどの二枚貝は、ノロウイルス食中毒の原因食品となった事例も数多く報告されていることから摂食方法に注意が必要です。

● ノロウイルス食中毒（感染症）防止対策について

ノロウイルス食中毒発生防止対策は、経口感染症としての感染経路を遮断すること、つまり、感染源となる患者の嘔吐物または糞便からの汚染経路を遮断することが基本となります。

具体的には、1. 十分な手洗い、2. 健康管理・衛生管理、3. 殺菌手法、4. 汚染源の適正処理というような対策を講じる必要があります。

1 手洗いについて

ノロウイルス感染症・食中毒は、人の手指を介して汚染が拡大するケースが多く報告されています。

保健所では、この汚染拡大を防止するために、食品営業施設等に対するノロウイルス食中毒予防対策として、作業前、作業中、トイレ使用後等のタイミングにおける手洗い方法について、流水と石鹸による手洗いを2回行うよう指導しています。

なお、その他の細菌性食中毒予防対策として、手洗い後にアルコール製剤等の殺菌剤を活用することも有効です。

また、手ふきタオルの共用は、

食品営業施設における標準的な手洗い手順

- ① 手を洗う前に、指輪や時計を外す。
- ② 流水で手に付いた汚れを落とす。
- ③ 手洗い用石けん液を適量、手にとる。
- ④ 十分に泡立てる。
- ⑤ 手の平と甲を洗う（5回程度）。 **洗い残しの多い箇所**
- ⑥ 両手の指の間を十分に洗う（5回程度）。
- ⑦ 親指の付け根まで十分に洗う（5回程度）。
- ⑧ 指先を洗う（5回程度）。
- ⑨ 手首を洗う（5回程度）。
- ⑩ 肘まで洗う。
- ⑪ 爪ブラシで爪の間を洗う。
- ⑫ 流水で十分にすすぐ（石鹸除去。15秒以上）。
- ⑬ 手順3から手順12までをもう一度行う。
- ⑭ ペーパータオルで拭く。
- ⑮ アルコールを手（手の平・指先）にかける。
- ⑯ 指先→親指→手の平→指の間→手首にすり込む



感染拡大につながりますので、ペーパータオルの活用が推奨されています。

高齢者施設での食中毒事例

ある高齢者施設で、給食を食べた入所者、職員など約200人が腹痛、下痢、発熱などの症状を訴え、発症者の便からノロウイルスが検出されました。

調理従事者の1人が、調理前日に嘔吐と下痢を起こしており、その状態で給食の盛り付けなどを担当していました。この職員から、患者と同じノロウイルスが検出されました。以上のことから、盛り付け作業の際に手指を介して給食が汚染を受け、食中毒を起こしたと考えられました。

2 健康管理・衛生管理について

ノロウイルス感染症が流行し患者数が激増する冬場は、ノロウイルス不顕性感染者（無症状感染者）が食品や食品取扱施設に接触する機会も増えることから、ノロウイルス食中毒も多発傾向にあります。

ご自身が感染を被らないよう、また、感染源とならないよう自己健康管理が重要です。

健康管理のPOINT

- ①人混みなどではマスクを着用しましょう。
- ②普段の手洗いを励行しましょう。
- ③真カキなどの二枚貝は十分に加熱して食べましょう。
- ④胃腸炎症状を呈した場合は、直接食品に触れる作業から外れ、医療機関を受診しましょう。

また、ノロウイルスの罹患が疑われる場合は、被感染を仮定した対応（衛生管理を徹底した生活）が必要です。

健康管理のPOINTに加え、汚染源（嘔吐物・糞便）の適正処理、生活環境の消毒（汚染拡大防止：トイレ、手すり等の消毒）、家庭調理時の衛生管理（手袋等の活用）、加熱調理品の十分な加熱（85℃ 1分間以上）などに注意が必要です。

3 ノロウイルスの不活化（感染力を無効にする）方法

（1）加熱

ノロウイルスは、85℃ 1分間以上の加熱で不活化します。

加熱調理品は、中心温度で85℃ 1分間以上の十分な加熱を施してください。

（2）薬剤

ノロウイルスの殺菌には、次亜塩素酸ナトリウムが有効です。

汚染源（嘔吐物・糞便）に対しては、1000ppm、汚染が疑われる環境に対しては、300ppmに調製したものを使用してください。

（ノロウイルスには、アルコールや逆性石鹼は十分な殺菌効果を期待できません）

次亜塩素酸Na1000ppmの作り方

：6%の次亜塩素酸Naを60倍に薄める。

次亜塩素酸Na300ppmの作り方

：6%の次亜塩素酸Naを200倍に薄める。

4 汚染源（嘔吐物）の適正処理方法

（１）嘔吐物の処理手順

- ①患者を落ち着かせ（汚染拡散防止）、周りの人を退去させる（感染の防止）
- ②処理者は、手袋、マスク、前掛けを着用
- ③嘔吐物に新聞紙等をかける（飛散防止対策）
- ④新聞紙等の上から次亜塩素酸Na（1000ppm）を振りかけ、10分間放置
- ⑤窓を解放（換気：飛散したウイルスの排出）
- ⑥へら等で嘔吐物を中心部に集め、新聞紙ごと採り、ビニール袋に捨てる
- ⑦嘔吐箇所（2m×2m）を次亜塩素酸Na（1000ppm）で拭き、拭いた雑巾は、そのまま捨てる
- ⑧処理後、使用した手袋、マスク、前掛け等を捨て、ゴミ袋の口を縛り、屋外に出す

（２）嘔吐者のケア

- ①嘔吐物の付着した衣類は、ビニール袋に入れて別洗濯
- ②手や口を洗面所等で洗う（その後、洗面所を消毒（次亜塩素酸Na1000ppm）
- ③介助者の衣類の管理に注意。手洗い等衛生管理の徹底

（３）その他

次亜塩素酸Naは、漂白効果と金属を錆びさせる作用があるため、色物、金属には使えない。熱湯やアイロン、高温蒸気発生機などの転用が有効（85℃1分間の加熱）。

手すりなどの屋内設備は、300ppmの次亜塩素酸Naで消毒。

● これからのノロウイルス食中毒（感染症）対策

先日、山梨県内の事例を取り上げ、秋から冬に流行するノロウイルスの集団感染が今年は6月になっても続く異例の事態となっているということが報道されました。

感染は、介護老人福祉施設、小学校、保育園等で発生し、いずれの事例も原因不明とのことでしたが、原因が確定しない状況において、感染症の侵入防止対策は、様々な要因から原因を推定し拡大防止対策を講じなければならず、現場（関係施設）では対応に苦慮しているのが現状です。

しかし、このような食中毒または感染症の緊急事態に対し、組織的系統的に備えることが健康危機管理対策であり、これは、様々な局面で安全・安心を考えるときの主軸となることから、早期の整備が求められます。

危機管理対策は、命令（指示）系統、物資要因、人的要因、代替給食等の連絡調整、衛生作業手順書等マニュアルの整備などが盛り込まれることになりますが、重要なのは、対策の内容を関係者が実際に活用できるものに仕上げ、且つ、感染症発生時に迅速かつ適正に対応できるよう、実地演習やイメージトレーニングを計画的に実施することです。

人間は、普段から準備（訓練）していないことを有事の際にやろうとしても早々出来るものではありません。

まず、今、できることは、一人一人がその心構えを持つことではないでしょうか。

平成19年度事務長会議報告

事務長会会長
介護老人保健施設 緑樹苑
事務部長：佐藤 幸雄

新潟県介護老人保健施設協会平成19年度事務長会議が平成20年1月23日ホテル新潟で開催された。

まず、開会の挨拶に田中政春会長は、今現在、介護老人保健施設の大きな問題として、看護師や介護職員の確保が非常に厳しい。いろいろの理由が考えられるが、介護報酬の低減によるところが大きい。各施設一致協力して行政当局に私達の現状を訴えなければならぬとした。また、本日の講師に**全国老人保健施設協会会長 川合秀治先生**をお招きし「療養病床削減に伴って検討されている老健の今後について」と題して講演していたでくことの紹介をされた。

川合秀治全老健会長は平成19年4月に就任されてまだ1年にもたないが、精力的に行動され厚労省や関連の委員会等においても、全老健協会の代表として積極的に発言かつ論理的主張をされているという感想を述べさせていだきたい。

さて、私達の老健施設の誕生は遡ること20年（昭和63年）、制度創設の理念は今現在と何ら変わらない。「多様性・多機能、地域特性のニーズに対する的確な介護サービス」を担って真摯に対応してきた老健施設があったからこそ今日の介護保険制度が出来、存在している。「転換型老健」の問題は、療養病床の削減のため根幹は国家財政削減からの発想。老健施設サービスの二類型化（ダブルスタンダード）は絶対にあってはならない。全老健は平成19年8月1日付、社会保障審議会介護給付分科会に「療養病床の転換に伴う申し入れ書」提出。平成20年1月10日付、厚生労働省老健局長 阿曾沼 慎司 殿に「老健施設の医療に関する要望書」（平成20年度診療報酬改定に向けて）提出等、積極的に取り組んでいるところです。解決しなければならない課題は山積しているが、会員各位のご努力とご協力も不可欠です。宜しくお願いしますと締めくくった。

その他、「介護老人保健施設の適正な運営について」として

- 1、指定（許可）、変更、更新手続きについて
講師 新潟県高齢福祉保健課介護事業係 主任 関本 敬三 様
- 2、介護老人保健施設の実務の注意点について
講師 新潟県高齢福祉保健課施設福祉係 主事 後藤 由佳 様
- 3、実地指導について
講師 新潟県福祉・介護事業者指導室 主査 坂井 範彦 様
- 4、会員各位からの事前質問についての回答は、後藤主事から説明された。

この会議には、全会員86施設108名の施設長・事務長から参加していただき、大変盛会な会議となりました（当日欠席2施設3名）。



田中政春会長



全老健会長 川合秀治 様



会議の様子



関本敬三 様



後藤由佳 様



坂井範彦 様

平成19年度研修会報告

現場ですぐできる実践講座

日 時：平成20年1月30日(水)
会 場：新潟ユニゾンプラザ
4階 大研修室
参加施設：37施設
参加者数：64名



田中政春会長挨拶

講義「施設利用者にレクリエーションをどのように生かすか」

講師：(社)新潟県レクリエーション
協会理事
新潟医療福祉カレッジ講師
鈴木 允 先生



体を動かしての実践
レクリエーション



グループワーク

- (1)各施設での実態
- (2)自分の施設での活用方法



<参加者の声>

- ・体を動かしながらの講義だったので楽しく聞くことができた。
- ・他の施設の方々と情報交換できて大変よかった。
- ・楽しみながらレクリエーションへの理解を深められとても有意義な講義だった。

市民公開セミナー

『高齢者の認知症をめぐって』
～早期診断と早期介入の重要性～



日時：平成20年3月5日(水)
会場：新潟ユニゾンプラザ
多目的ホール
参加人数：約450名



開会挨拶

新潟県介護老人保健施設協会
会 長 田 中 政 春



座 長

新潟県介護老人保健施設協会
副会長 松田 ひろし



ほうゆう病院院長
横浜市立大学名誉教授
小 阪 憲 司 先生



講 演



質疑応答



閉会挨拶

新潟県介護老人保健施設協会
副会長 馬 場 肝 作

<参加者アンケートより>

- ・軽度の症状も見過ごさず、早期に対策をとる必要性がわかりました。
- ・大変ためになりましたし、3大認知症の分け方もわかりやすかったです。
- ・レビー小体型認知症について、よくわかってよかったです。

平成19年度

新潟県介護老人保健施設大会

平成20年2月20日(水) 新潟ユニゾンプラザにおいて「新潟県介護老人保健施設大会」が開催されました。今年は86施設から377名の方のご参加をいただき、5会場に分かれ口演80題・ポスター発表4題となりました。



開会式



会長：田中 政春



新潟県福祉保健部 高齢福祉保健課
課長：中村 忍 様



新潟県医師会
会長：佐々木 繁 様



新潟県老人福祉施設協議会
会長：近藤 和義 様



副会長：松田 ひろし



～参加者の声～

- * 他施設の問題点、それに対する取り組みを聞かせて頂き、自分たちの施設でも重なるような問題点が多々あり、業務の在り方・改善の方法を改めて考えさせられました。
- * その時々合ったテーマでの基礎講演などあったほうがより充実した大会になると思います。
- * 毎年冬季に開催され、道路状況が悪いので開催する季節をもう少し考慮して欲しい。
- * 各施設熱心に研究されていると感じました。当施設でも利用者様に負担にならない程度にいろいろな取り組みをしていきたいと思いました。
- * それぞれの会場を自由に行き来できることは、より多くの発表を聞くことができ良いと思うが、発表中は出入りを中止し、発表と発表の合間の時間をもう少しもうけて、その間に移動がすむようにすればいいのではないのでしょうか。

- *開会式後、発表まで待っている時間がかかりました。もう少し時間を有効的に使ってもいいのではと感じました。
- *日々、介護サービスを提供していく中、私と同じような介護職の人達がさまざまな取り組みをしていることがわかり、また明日からの仕事に活かせればと思った。
- *マイクの不良が目立ったように思いました。この日のために準備した方たちが気持ちよく発表できるように整備をよろしくお願いします。
- *聞きたい演題が重なるので2日間に分けてほしい。
- *まだまだ勉強不足の点が多く、他施設の方々に刺激を受け、これから勉強を続けていきたいと思いました。
- *日常の仕事の中で何気ないこと、気づかずに過ごしていることについて細かく取り上げて研究していることが多く勉強になった。



～学術奨励賞受賞演題～

(五十音順)

演 題	施設名	発表者
経管栄養半固形化の取り組みから見たこと	相川愛広苑	中村 和弘
眠れぬ夜のために	あすか	津野 陽子
いきいきプロジェクト	エバーグリーン	赤塚 加奈子
小型清拭車完成への道のり	関川愛広苑	渡辺 秀樹
あなたの夢、叶えたい！	やすらぎ園	嘉瀬 友美
よりよい面接を目指して	樂山苑	中嶋 夏子



閉会式
副会長：馬場 肝作



学術奨励賞受賞者

老健とわたし

様々な職種の職員が、それぞれの専門性を生かしながら施設を支えています。その職員の声と人柄をお届けします。



ケアホーム三条
医師
小田 幸夫

- ①新潟県
- ②全てが新鮮でリフレッシュできたこと
- ③登山、バックカントリースキー、読書、音楽鑑賞
- ④山に登ること
- ⑤30年間の外科医生活から開放されほっとしたのは、ほんの束の間でした。福祉の世界の深さに翻弄されています。入所者の皆さんの疾患は循環器から神経内科等多彩です。研修医時代を思い出し初心に帰って頑張ります。



健進館
看護職員
伊藤 富子

- ①新潟市秋葉区
- ②「人の痛み」＝「自分の痛み！！」。共に分かち合え、理解出来る喜びがあること
- ③強いて言えば旅行かな？！（家族旅行、職員旅行は欠かせません！！）
- ④最初はくよくよ考えていますが、その後は割り切ること……
- ⑤病院からの移動当初は、利用者様との関わり方に迷いましたが、月日と共にその生活や人生観を知りました。上は百歳までの年齢層に、個性豊かでプライドを持たれ、天真爛漫さに励まされて頂いた勇気とパワーが財産です。

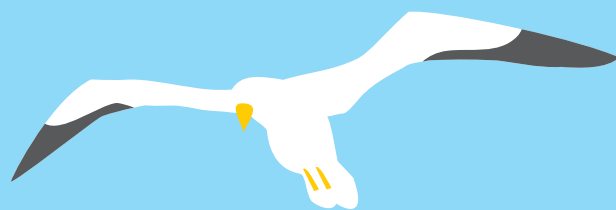


好日庵
介護職員
堀江 加奈枝

- ①三条市
- ②姑に対する忍耐力がついた事
- ③子供服などのリサイクル
- ④少女漫画にはまる事
- ⑤介護を始めて15年。年々厳しく複雑になっていますが、基本的にはお手伝い。「一つの事をやり続ける大切さ」と「自分らしく」を忘れずに続けていきたいと思っています。

質問内容

- ①出身地
- ②この仕事を選んでよかった事
- ③趣味
- ④私のストレス解消法
- ⑤メッセージ



国府の里
管理栄養士
渡辺さとみ

- ①上越市
- ②おいしそうに食べる顔が見られたとき
- ③ケーキ作り、茶道（表千家）、写真
- ④植物図鑑を片手に山野草のウォッチングをすること
- ⑤食を通して季節を感じていただけるように行事食やおやつ作りを行っています。当施設は海岸のすぐ近くにあり、夕日が沈む日本海は絶好の撮影ポイントです。ぜひお越し下さい。



五頭の里
主任調理師
圓山幸吉

- ①阿賀野市（旧京ヶ瀬）
- ②食事を出した時、入所者の「ハーイ」と応じる大きな声
- ③読書
- ④釣り
- ⑤入院患者様、五頭の里の入所者の方々に喜んでもらえる食事、安全な食事を提供できるよう努力したいと思っています。



こばり園
通所リハビリ作業療法士
長瀬匡史

- ①山形県
- ②利用者の方に「～が出来るようになったんです！！」と言われた時。
- ③スノーボード・野球・DSで脳トレ
- ④晩酌・体を動かす
- ⑤闘うリハビリ！！ 病気・加齢・職種間の連携・介護保険の改正・マンパワー・ハード面等々……いろいろな問題で頭を抱える事が多く、道に迷うこともありますが、利用者の笑顔のためいつまでも闘い続けたいと思います。

みんなの広場



ケアホーム三条『作品展』

若い頃より、文化刺繍や手芸に興味をお持ちだった左半身麻痺のご利用者が右手と口と足で貼り絵や文化刺繍を作成しました。この写真は、併設の済生会三条病院のギャラリーにおいて2週間展示され、大変好評でした。

健進館『紫陽花』

利用者様に、やさしく美しく花開く紫陽花を作って頂きました。花卉を作り、花芯をつけ貼っていく。分担作業で協力し合い完成した紫陽花に、水色の傘と蛙の姿も愛らしい。飾った時の皆様の歓声と笑顔が印象的でした。



好日庵『お花畑』

5月に、デイケアご利用の皆様とスタッフとで、お花紙を色取り取り使い、一玉一玉を手作業で丸め、のりで貼りました。完成した時は、大きな歓声が上がりました。

国府の里『ひまわり』

通所リハビリのご利用者様が、全員参加でひまわりの花の壁絵を作りました。元気一杯のひまわりが咲き室内にも夏が訪れました。



五頭の里『三角だるま』

水原の特産である三角だるまを作りました。たくさんの入所者の方々が、日替わりで少しずつ紙を折ったり、貼ったり、色を塗ったりして完成させた力作です。運動会では、綱引きの代わりにこのだるまにロープをつけて、赤白どちらが早く引っ張れるか競争しました。勝ったチームは、めでたくだるまに目を入れることができました。

こばり園『季節のカレンダー』

通所リハビリ職員と利用者様が協力して毎月作製している貼り絵です。デザインや構成などを考える時は大変ですが、利用者様が見やすいような工夫と季節感を出せるように気をつけています。



編集後記

6月5日に東京日比谷公園大音楽堂で行われた「介護職員の生活を守る緊急全国集会」を特集としてとり上げました。老健の未来が先の見えないものであってはならないという気持ちを新たに編集いたしました。

また、今回の講座は食中毒についてです。各施設で役立ててくだされば幸いです。

今後もお役にたてる情報をお届けできるよう努力して参りますので、よろしくお願い致します。
(広報委員 伊藤貴子)

新潟県介護老人保健施設協会広報誌

「老健にいがた」 第24号

編集・発行：新潟県介護老人保健施設協会
広報委員会

〒940-2301 新潟県長岡市宮沢327番地1
介護老人保健施設楽山苑内

TEL (0258) 42-3500

FAX (0258) 42-3900

印刷 吉原印刷株式会社